

内訳書転記支援ツール利用マニュアル

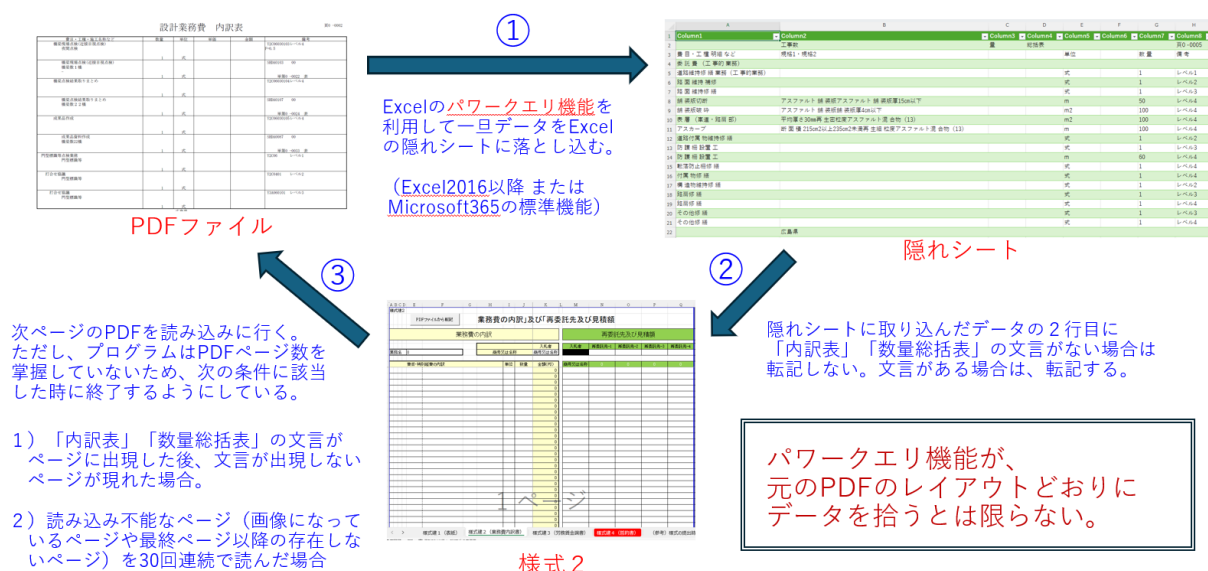
令和8年10月1日作成

【注意】 内訳書転記支援ツールは、PDF ファイルの内容を正確に転記するとは限りません。
転記結果に誤りがないか十分ご確認ください、必要に応じて修正してください。

【使用環境・動作概要】

内訳書転記支援ツール（マクロ）は、Excel のパワークエリ機能を利用しています。
そのため、内訳書転記支援ツールを動作させるには、パワークエリ機能を利用可能な Excel のバージョン（Excel2016 以降、Microsoft365 を含む）である必要があります。

内訳書転記支援ツールの動作概要



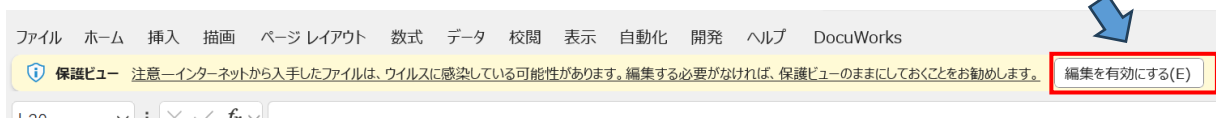
【前提条件】

マクロの使用を前提にしていますので、Excel 設定でマクロを無効にしている場合は、Excel → [ファイル] → [オプション] → [トラストセンター] → [トラストセンターの設定] → [マクロの設定] を押して、下記の画面を出し、「警告せずに VBA マクロを無効にする」以外のいずれかにチェックを付けてください。

信頼できる発行元	マクロの設定 ☐ 警告せずに VBA マクロを無効にする (M) ☒ 警告して、VBA マクロを無効にする (A) ☐ 電子署名されたマクロを除き、VBA マクロを無効にする (G) ☐ VBA マクロを有効にする (推奨しません。危険なコードが実行される可能性があります)(N)
信頼できる場所	
信頼済みドキュメント	
信頼できるアドイン カタログ	
アドイン	

赤枠内の3つのうちのどれかにする。(下に行くほどセキュリティレベルが低くなる)

3つのうち上の2つにチェックした場合、ファイルを開いた時に下のようなボタン（「編集を有効にする」「コンテンツの有効化」）が出るので、ボタンを押してマクロを有効にする。

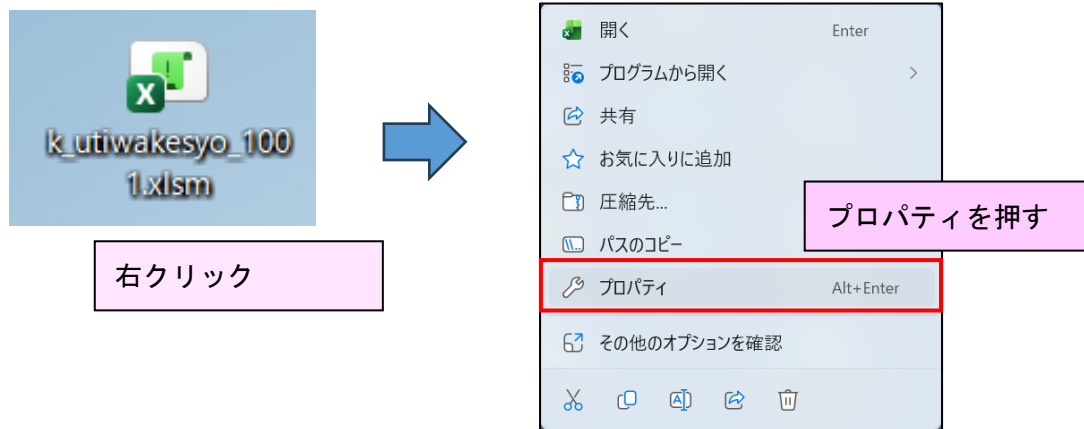


なお、有効にしても、次のようなメッセージが出てブロックされる場合があります。

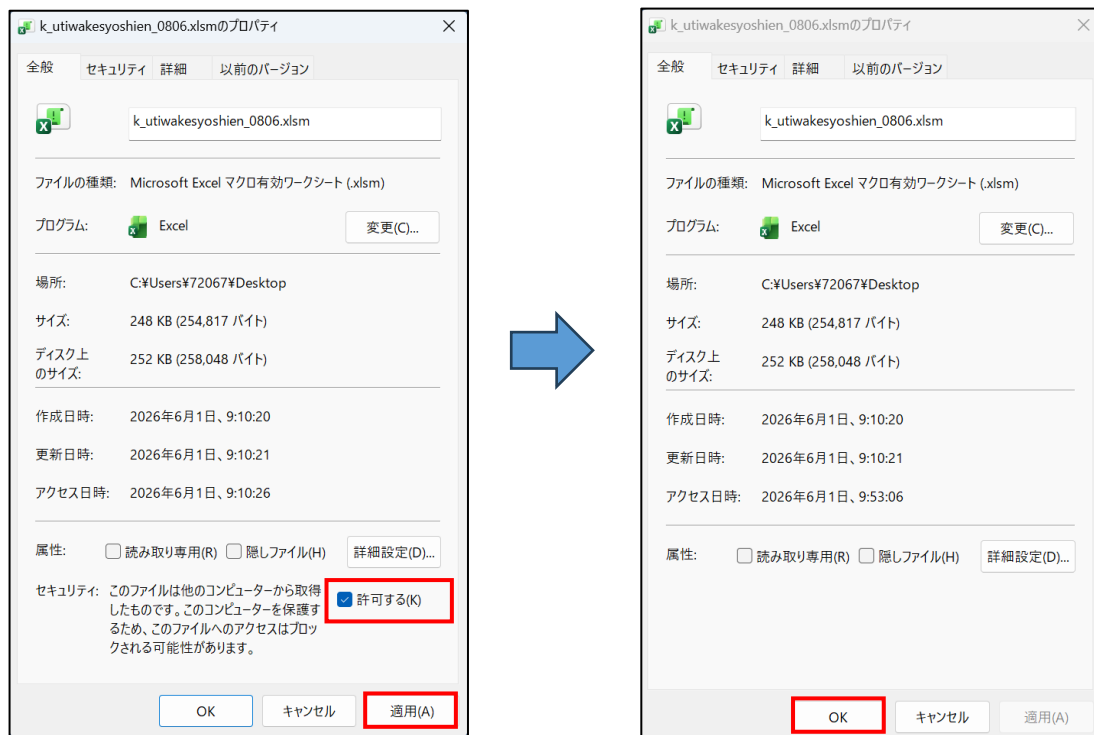


その場合は、一旦 Excel ファイルを閉じて、次の手順を実行してください。

① ファイルを右クリックして「プロパティ」を押します。



②右下の「許可する」にチェックを入れて、「適用」を押し、最後に「OK」を押します。



【転記内容】

- ・ PDF ファイルの「工事数量総括表」または「業務費内訳表」の「費目」「規格」「単位」「数量」を転記します。ただし、レベル4より下位の「費目」は転記しません。
- ・ H列には、「レベル1」～「レベル4」までの文字が追記されます。

工事数量総括表

頁0 -0001

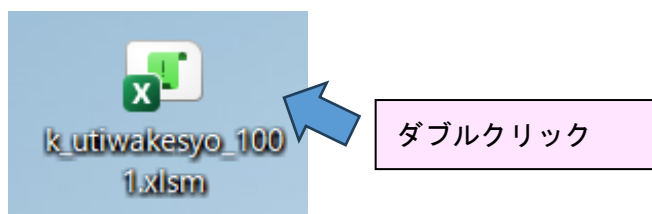
費目・工種明細など	規格1・規格2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	備 考
本工事費					
畑かん施設工		式		1	レベル1
土工		式		1	レベル2
作業土工	管体工	式		1	レベル3
床堀		式		1	レベル4
土砂等運搬	仮置き	m3		570	レベル4
埋戻	埋戻しⅠ	式		1	レベル4
埋戻	埋戻しⅡ	式		1	レベル4
土砂等運搬	流用土	m3		260	レベル4
作業土工	既設管接続工	式		1	レベル3
床堀		式		1	レベル4



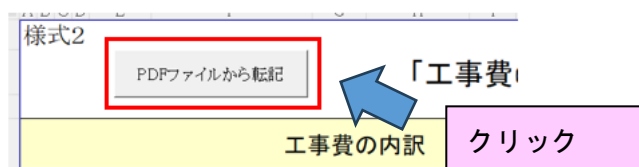
工事名	商号又は名称			
費目・工種明細など		規格1・規格2	単位	数量
本工事費				
畑かん施設工		レベル1	式	1
土工		レベル2	式	1
作業土工	管体工	レベル3	式	1
床堀		レベル4	式	1
土砂等運搬	仮置き	レベル4	m3	570
埋戻	埋戻し	レベル4	式	1
埋戻	埋戻し	レベル4	式	1
土砂等運搬	流用土	レベル4	m3	260
作業土工	既設管	レベル3	式	1
床堀		レベル4	式	1
土砂等運搬	仮置き	レベル4	m3	13
埋戻	埋戻し	レベル4	式	1
埋戻	埋戻し	レベル4	式	1
土砂等運搬	流用土	レベル4	m3	8
作業残土処理工	管体工	レベル3	式	1

【利用方法】

- ① マクロ付き Excel ファイル（k_utiwakesyo_1001.xlsm など）を開きます。



- ② 「様式2」のシート左上にある「PDF ファイルから転記」ボタンを押します。
※以前のデータがシートに残っていても構いません。転記実行前に自動消去します。

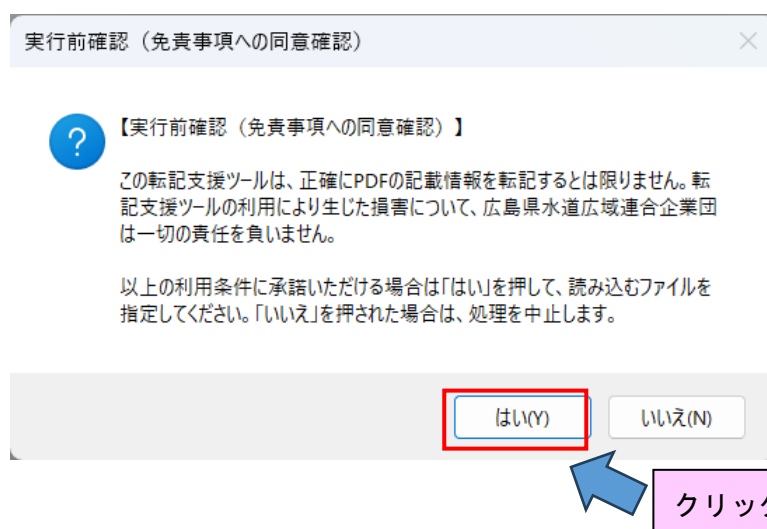


- ③内訳書転記支援ツールは、PDF ファイルの内容を正確に転記するとは限りません。
(転記ミスが生じる具体的な事例について、6 ページに記載しています。)

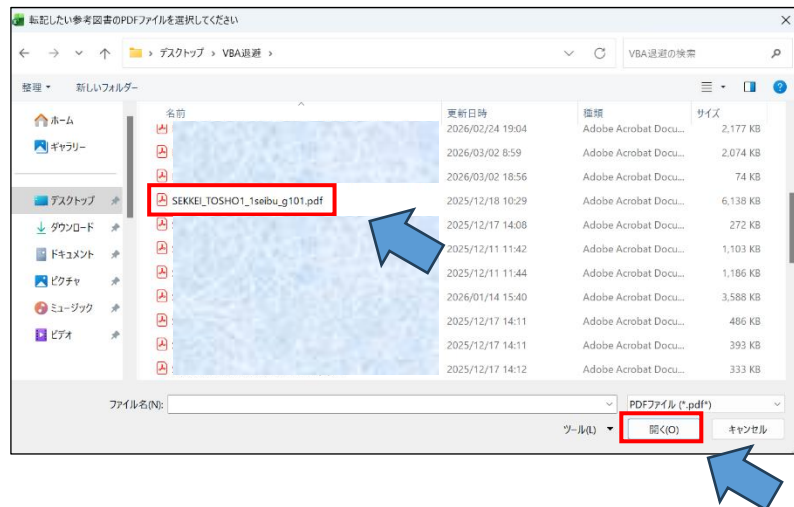
よって、転記支援ツールの処理結果は、利用者で十分に確認いただき、必要に応じて利用者側で修正を行っていただく必要があります。転記支援ツールの転記ミスをそのままにした結果、利用者に失格等の損害が生じたとしても広島県水道広域連合企業団は一切の責任を負いません。

その利用条件に承諾いただける場合は、「はい」を押してください。

「いいえ」を押すと、処理を中止します。

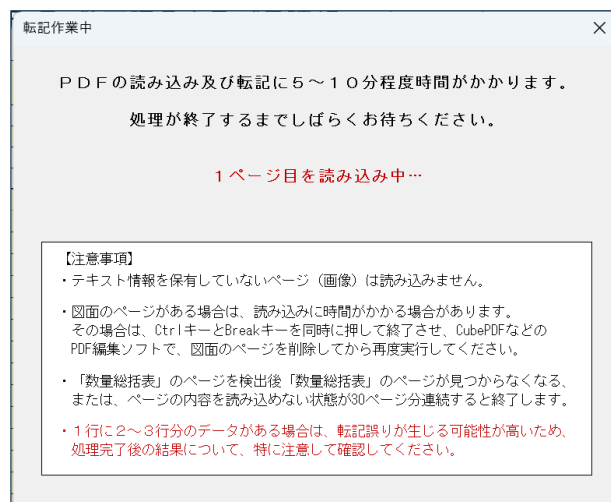


④ファイル読み込みダイアログが出現するので、読み込む PDF ファイルを指定します。

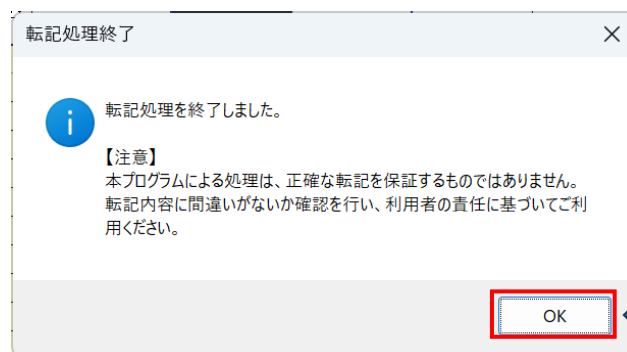


開きたい
PDF ファイル
を選択して
「開く」を
押します。

⑤画面中央に進捗状況を表すダイアログが出現しますので、完了するまで放置します。



⑥「転記処理を終了しました」のメッセージボックスが出れば終了です。



「OK」を
押して終了
します

【転記結果で注意すべき点（転記ミスが生じる具体的な事例）】

- ・転記結果は、PDF ファイルの掲載内容と必ず一致するとは限りません。

特に次のような転記誤りが発生することがありますので、転記結果を十分にご確認の上、必要に応じて転記された後のセルを直接修正してご利用ください。

- ①元の PDF ファイルの「工事数量総括表」や「業務費内訳表」における数量が、枠線をはみ出して記載されている場合、枠をはみ出している部分が転記されないことがある。

工事数量総括表

頁0 -0001

費目・工種明細など	規格1・規格2	単 位	数量（前回）	数量（今回）	備 考
本工事費	土木工事				
排水機場設備基礎工事		式		1	レベル1
設備基礎工		式		1	レベル2
既設設備基礎取壊し工		式		1	レベル3
コンクリート構造物取壊し	既設設備基礎（無筋コンクリート）	m3		6.8	レベル4
殻運搬	無筋コンクリート殻	m3		6.8	レベル4
殻処分	無筋コンクリート殻	t		16	レベル4
コンクリート	18-8-40BB ピット撤去（減速機周辺）	m3		0.1	レベル4
設備基礎工		式		1	レベル3
設備基礎工		m3		8.3	レベル4
鉄筋	SD295_D13	t		0.207	レベル4
鉄筋（差筋）	SD295_D13	t		0.039	レベル4
ケミカルアンカー	D13用	本		80	レベル4

工事名		商号又は名称		元請負人
				商号又は名称
費目・工種明細など		規格1・規格2	単位	金額(円)
本工事費		土木工事		
排水機場設備基礎工事		レベル1	式	
設備基礎工		レベル2	式	
既設設備基礎取壊し工		レベル3	式	
原本 0.207 → 転記後 0.20 ※枠をはみ出した7が転記されない				
原本 0.039 → 転記後 0.03 ※枠をはみ出した9が転記されない				
設備基礎工		レベル3	式	
設備基礎工		レベル4	m3	8.3
鉄筋		SD295_D13	t	0.20
鉄筋(差筋)		SD295_D13	t	0.03
ケミカルアンカー		D13用	本	80
コンクリート削孔			孔	80
コンクリート構造物取壊し		無筋コンクリートピット構	m3	0.3
殻運搬		無筋コンクリート殻	m3	0.3
殻処分		無筋コンクリート殻	t	0.7

原本 0.207 → 転記後 0.20 ※枠をはみ出した7が転記されない
 原本 0.039 → 転記後 0.03 ※枠をはみ出した9が転記されない

【注意！】

このような数字の誤りを放置したまま提出しますと、失格となりますので、特に注意をお願いいたします。

転記処理が終わった後で、手入力にて修正して上書き保存してください。

②「規格」に記載されている文字列の一部が、「費目」の文字列の後ろにくっついて転記されてしまう場合がある。(発生条件は特になく、Excel のパワークエリ機能による仕様のため、PDF ファイルによって発生したりしなかったりする)

工事数量総括表

頁0 -0003

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位	数量	備考
小口止コンクリート	小型構造物 18-8-40BB	m3	1	レベル4
カルバート工	3号函渠工	式	1	レベル2
作業土工		式	1	レベル3
場所打函渠工(構造物単位)		式	1	レベル3
函渠	内幅1.8m, 内高2.01, Co規格24-12-25	m3	32	レベル4
鉄筋	SD345 D16~D25	t	0.87	レベル4
鉄筋	SD345 D13	t	1.39	レベル4



「規格」にあるべきものが「費目」に転記されてしまう。

工事名	商号又は名称	商号又は名称
費目・工種明細など	規格1・規格2	単位 数量 金額(円)
中詰工	割栗石(5~15cm) レベル4	m3 13
胴込・裏込材(砕石)RC-40	レベル4	m3 20
吸出し防止材(全面)設置合成不織布	t=10mm9.8kN/m レベル4	m2 35
小口止コンクリート 小型構造物	18-8-40BB レベル4	m3 1
カルバート工 3号函渠工	レベル2	式 1
作業土工	レベル3	式 1
場所打函渠工(構造物単位)	レベル3	式 1
函渠 内幅1.8m, 内高2.01, Co規格24-12-25	レベル4	m3 32
鉄筋 SD345	D16~D25 レベル4	t 0.87
鉄筋 SD345D13	レベル4	t 1.39
中詰め土土砂	レベル4	式 1
Coブロック工(Coブロック積)	レベル3	式 1
1号コンクリートブロック基礎18-8-40BB	W=564mmH=300mm レベル4	m 2
2号コンクリートブロック基礎18-8-40BB	W=547mmH=350mm レベル4	m 2
大型ブロック積ブロック2,000kg/個以下	水抜きパイプ無し レベル4	m2 13

【注意！】

上記のように同一行に必要な事項が漏れなく記載されている場合は、適格として処理されますが、このような誤りが見つかった場合は、本来の書類と合致するよう手入力にて修正してください。

- ③同一項目内でデータが分割されてしまい、分割されたデータが、末尾等にくっついて転記されてしまう場合がある。(発生条件は特になく、ランダムに発生する)

元の PDF ファイルの業務費内訳表

直接原価					
その他原価					
計算情報..... 対象額..... 率.....					
間接原価					
業務原価					
一般管理費等					
計算情報..... 対象額..... 率.....					
業務価格計					



転記支援ツールの「様式 2」

36	**直接原価**
37	その他原価
38	計算情報.....
39	対象率.....額.....
40	**間接原価**
41	**業務原価**
42	一般管理費等
43	計算対象額.....率.....情報.....
44	業務価格計

対象 []
率..... [] 額.....

情計算 []
対象額.....
率..... [] 報.....

【注意！】

そもそも提出する必要のない内容であれば行ごと削除するなどの対応をしてください。
残す必要のある内容であれば手入力で修正してください。

- ・提出に際して不要な行は、必要に応じて行全体を削除しても構いません。

【利用上の制約事項】

- ・「様式2」の最終行を判定するにあたり、表の枠外の文字列（例えば、「※1 総合評価落札方式の適用工事のうち～」などの文字列）を利用していますので、表の枠外の文字列（A列またはB列）については、修正しないでください。

※1 総合評価落札方式の適用工事のうち、技術評価2型、技術評価1型及び高度技術提案型により実施する工事においては、入札価格が調査基準価格以上の場合は、該当するレベル3の工種の下に、調査基準価格未満の場合は、該当するレベル4の工種の下に技術内容及びこれに係る経費等を記入すること。

※2 下請負人及び見積額の記入を要する場合は、全ての1次下請予定者からの見積書の写しを添付してください。

「※1 総合評価落札方式の適用工事のうち～」と書かれた部分は編集しないようにしてください。

- ・テキスト情報を保有していない PDF ページ (画像になっているページ) は読み込みません。
※PDF を開いて、そのページの文字を選択しようとマウスカースル等を操作しても、何も
選択できない場合は、テキスト情報を保有していない状態です。

- ・ PDF の 1 ページ目に工事名・業務名を含む表紙がない場合は、工事名・業務名を取得できませんので、必ず 1 ページ目には表紙がある状態にしてください。
※表紙が 1 ページ目がない場合の PDF 編集方法は、次項で説明します。

第 〇〇〇 号	第 〇〇 号	業 務 領 受								
建 設 事 務 所 国 補 令和 〇〇 年度										
実 施 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">仕 様 書</th> </tr> <tr> <td style="width: 80%;"> 株式会社 (有限責任社員持分者) </td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>工 事 名 称</td> <td>印</td> </tr> <tr> <td>主 要 部 品</td> <td></td> </tr> </table>			仕 様 書		株式会社 (有限責任社員持分者)		工 事 名 称	印	主 要 部 品	
仕 様 書										
株式会社 (有限責任社員持分者)										
工 事 名 称	印									
主 要 部 品										

この表紙ページが
1ページ目に存在
することを前提に、
工事名・業務名を
取得するよう
プログラムを
組んでいます。

- ・PDF ファイル内に、大量のデータを含む図面ページが存在したり、工事数量総括表や業務費内訳表以外の資料を多く含んでいる場合は、読み込みに非常に時間がかかり、条件によっては動作が止まったようになる場合があります。
- 動作が止まったようになってしまった場合は、キーボードの「Ctrl」キーと「Break」キーを同時に押すと、以下のダイアログが出るので、「終了」ボタンを押してプログラムを終了させてください。

Microsoft Visual Basic

コードの実行が中断されました。



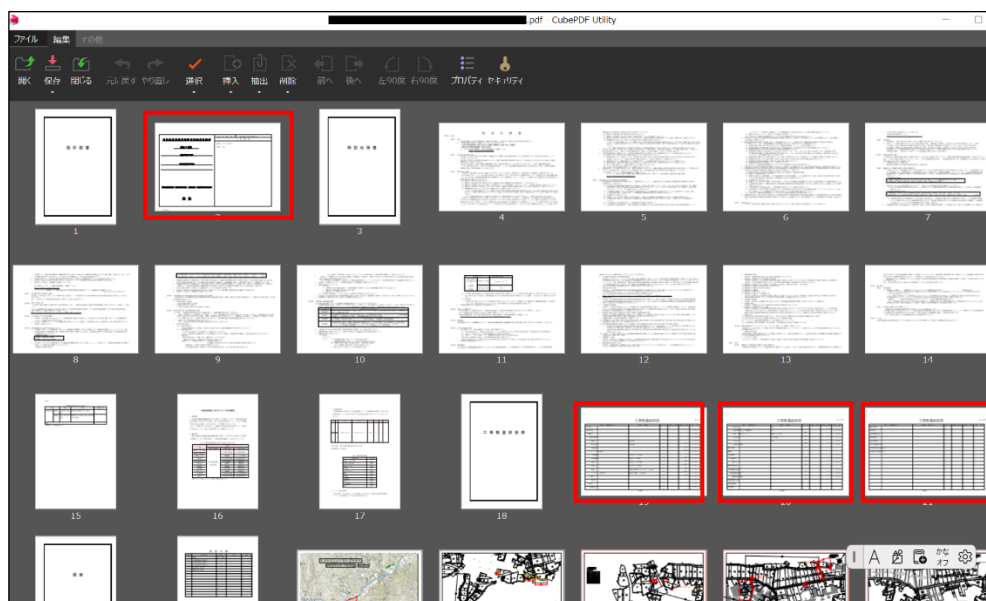
継続(C) 終了(E) デバッグ(D) ヘルプ(H)

その上で、CubePDF Utility などの PDF 編集ソフトを使用して、PDF ファイルから図面のページを削除するなどしてから、編集後ファイルを読み込ませて実行してください。

【参考手順】フリーソフトの CubePDF Utility を例に手順を示します。

CubePDF Utility のダウンロードページ : <https://www.cube-soft.jp/cubepdfutility/>

- ①編集を行う前に、オリジナル（原本）の PDF ファイルはコピーして退避させてください。
- ②CubePDF Utility を起動し、編集しようとする対象の PDF ファイルを開きます。



- ③内訳書転記支援ツールの動作上必要なページは、**表紙**と**工事数量総括表** または **業務費内訳表**のページになります。

（②の図の赤枠で囲っているページが必要なページです）

それ以外は必要ないため、「Ctrl」キーを押しながら、**不要なページを全てクリック**して選択。その後、「Delete」キーを押すと下図のように必要なページだけ残ります。



- ④上図で「保存」ボタンを押して、CubePDF Utility を終了させれば完了です。
この作業を行った方が、読み込み作業の効率が良くなり、完了までの時間も早くなりますので、できるだけこの作業を行ってから転記実行することを推奨します。

【内訳書転記支援ツールに関するお問い合わせ先】

〒730-0011 広島市中区基町 10 番 52 号

広島県庁南館 3 階 広島県水道広域連合企業団 技術管理課 技術管理 G